

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-120   A-169	20-001	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Gender Difference in Longitudinal Social and Personal Factors Related to Frequency of Alcohol Consumption of South Korean Adults: A Fixed-Effects Model 韓国の成人におけるアルコール消費頻度に関与する長期的な社会的および個人的因子の性別間の違い：固定効果モデル		
<b>執筆者</b>		
Sung B.		
<b>掲載誌</b>		
Asia Pac J Public Health. 2020 Jul;32(5):258-265. doi: 10.1177/1010539520925718.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
性別、固定効果モデル、社会心理的、飲酒文化、韓国		32468847
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 韓国では社会的に飲酒に対する寛容な文化が根付いている。韓国成人の社会的背景と飲酒量の関係についての現在までの研究はいずれも横断研究であるものが多く因果関係についての説明が不十分だった。そこで、アルコール消費の頻度と長期的な社会的・個人的背景との関連についての性別間の違いを明らかにすることを目的とした。</p> <p><b>方法：</b> 2005年から2016年の Korea Welfare Panel Study (KoWePS)のデータを用いた。20-70歳の成人、合計男性 38,571人年、女性 32,012人年が対象となった。過去1年の飲酒量、各種生活満足度、婚姻状況、雇用状況、居住区、学歴、喫煙状況等は質問紙表に基づく被験者の自己申告制で調査した。</p> <p><b>結果：</b> 男性では、健康満足度以外の生活満足度および婚姻状況アルコール消費と関連がなかった。一方女性では、生活満足度が低いほど、および未婚であるとアルコール消費量が多い傾向があった。収入は男性ではアルコール消費量と正の相関があったが、女性では収入とアルコール消費量とは関連しなかった。男女とも労働状況とアルコール消費量とは正の相関があった。</p> <p><b>結論：</b> アルコールが社会にもたらす負の影響や家庭の不和を減らすためにも、これらの結果を踏まえながら韓国成人の過剰飲酒を抑制していくことが大切である。</p>		